

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八幡南高等学校

自己評価		評価(総合)	
学校運営計画(4月)		A	
学校運営方針	「鍛え、ほめ、可能性を伸ばす」ことで、全人的な人間教育と生徒一人一人の自己実現をめざす。【志高くチャレンジ！ 希望を貫け！】		
昨年度の成果と課題	年度重点目標 具体的目標		
これまで取り組んできた生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の成果は現れているが、更なる高みを目指して地域や保護者から信頼される学校づくりが必要であると考えます。 今年度も引き続き、生徒の志を高め、生徒がチャレンジし、希望を貫くことができるよう、教職員が各々の力を結集し、組織的に推進することが学校運営の課題である。また、周年行事やボランティア活動等とおして、地域に開かれた地域密着型の学校づくりを目指す。	○授業改善をより一層進め、教育活動の質の向上を図り、生徒が高い志を持って意欲的に学べるよう努める。		・言語活動や体験活動、一人一台端末を積極的に活用した学習活動等の充実を図る。 ・「授業で勝負」の理念のもと、確かな学力の定着を目指し、生徒が授業で力がついたと実感できるように授業改善を進める。 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別評価や多面的・多角的な評価の充実を図る。
	○生徒の多様な進路に対応したカリキュラムにより、生徒の自己実現に向け、第一希望進路100%達成を目指す。		・個に応じた指導を行うことで、生徒の進路意識の高揚を図り、生徒一人ひとりの自己実現を目指す。 ・地域社会等と連携した「総合的な探究の時間」によりキャリア教育を推進する。
	○成年年齢の引き下げに伴う社会の変化に対応し、生徒自らが多様な価値観の人々と協働し、社会で活躍できる人材を育てる。	・成年年齢引き下げに対応した教育を充実させる。 ・ボランティア活動等を通して、他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく、実践力を備えた人材を育成する。	
	○感染症対策を図るとともに、生徒の発達段階に応じ、健やかに豊かな情操を身につけた人間を育成する。	・「学校の新しい生活様式」に則り、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減する。 ・人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。 ・インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。	
○創立60周年記念事業をおとして、真のリーダーを育成し、学校活性化を図る。	・生徒主体の学校行事の成功に向けて努力するリーダーシップのある生徒を育成する。 ・特別活動(ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事)や部活動等を充実させ、たくましい人間力、コミュニケーション力の育成を図る。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務課	主体的に学び、考える姿勢を育む教育を推進する。	情報広報課と連携し、ICT機器を効果的に活用した授業の推進を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業については、一人一台端末が配備されたことにより授業の形態もまだまだ変わってくるが予想される、積極的に活用している情報を収集して先生方に提供していきたい。授業アンケートはシステムを変更し、先生方に素早くデータをお返しできるようにしたので、さらに授業改善が進むよう仕掛けを行っていきたい。</li> <li>・オンラインシステム(Microsoft Teams、Google Classroom、スタディアアプリ)をさらに活用し、生徒が自走できるようにしていけるようにしていきたい。また、教員のペーパーレスにもつなげていきたい。</li> <li>・教科主任会議で情報共有を行い、新学習指導要領に関する情報の共有を図るとともに、評価の充実を図っていきたい。</li> </ul>
		授業アンケートのさらなる改善を行うとともに、「授業で力がついた」の項目が学校で3.5以上(4段階評価)をめざす。	B	
		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る。	B	
	教務部の組織化を進め、効率的な業務運営を行う。	情報広報課、庶務課と連携を行い、学校行事などに速やかに対応できる体制の確立を目指す。	A	
		各行事における時間割変更、授業時数の集約、欠課時数の集約など、組織的にシステムの運用を図る。	B	
		共有フォルダおよび校内メールを適切に活用し、円滑な業務運営を行うとともに、職員配布物についてもプリント配布の合理化を進める。	A	
カリキュラム・マネジメントを通して、教育活動の質の向上を図る。	教科主任、教務部の連携を強化し、会議およびメール機能を通じて意識の統一を図る。	B		
	大学入学共通テストに関する教科会議を開催し、情報共有を行い、生徒に適切な指導ができる体制の確立を図る。	B		
	思考力・判断力・表現力を育むための授業のあり方や評価等について共通理解を図り、全職員で組織的に取り組めるよう指導方法の検討を行う。	A		
情報広報課	校内向けに写真記録等の掲示、校外向けにホームページ等の更新を行い、広報活動を活発化させる。	校内では、電子掲示板や職員室前のボードに行事の写真や部活動の記録を、担当を決めて掲示する。	C	
		校外に向けて、60周年記念のスローガンや記念行事の様子等をホームページや広報用のパワーポイントに載せる。	B	
		中学生体験入学における学校説明や部活動見学の中で、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。	A	
		学校パンフレットや60周年記念ポスター等を各中学校や塾に積極的に配布する。	A	
	情報機器の管理や業務のデジタル化を通して、先生方が仕事をしやすい環境を整える。	会議室やICT機器の利用について、学校ポータルでの予約システムの構築を行う。	A	
		学期に1回は情報機器の運用状況や所在を把握し、円滑に利用できる環境を整える。	C	
庶務課	学校行事が円滑に実施できるよう、早期に綿密な計画を立てる。	formsでのデータ集約やgoogleアプリによる共同編集など、ICT活用の幅を広げる。	A	
		校務支援システムやteams等の既存のシステムの簡略化・マニュアル化を進める。	B	
		校務支援システムを来年度から、担任も教科担当も毎日入力へとシステムを変更するため、様々なシステムの使い方のマニュアル化を引き続き進めていく。	B	
	PTA活動・互助会活動の円滑な運営を行う	感染症対策を徹底し、「参加者が安心して参加できる式典」を第一に考えて企画する。	A	
		式典・行事ごとに複数の担当者を割り当てて、チームでその企画・運営にあたる。	A	
		PTAや同窓会と密に連絡をとり、創立60周年事業を成功に導く。	A	
奨学金希望者への正確かつ分かりやすい情報の提供を図る。	PTA活動の引継ぎ等を確実にし、コロナと共有しながらのPTA活動を促進する。	A		
	PTA各種委員会との連携を深め、委員会活動の活性化を図る。	B		
	互助会活動には全職員で取り組む。	C		
奨学金の募集時期や種類をわかりやすく提示し、就学及び進学を経済面から支援する。	奨学金の募集時期や種類をわかりやすく提示し、就学及び進学を経済面から支援する。	A		

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	授業参観では、ICTを活用した授業実践を確認することができた。一人一台端末の整備によるクロームブックを活用した生徒参加型の授業推進を更に期待したい。今後も生徒の興味・関心を高め、意欲をもって学べる工夫を模索して欲しい。
B	広報活動に電子掲示板を活用するといった視点は評価できる。ホームページをはじめ、情報発信の手段は多様化しているため、様々な媒体を活用した広報活動をお願いしたい。また、今後も地域と連携した活動にも力を入れていって欲しい。
A	各系の業務分担や業務の引継ぎには職員相互の連携とマニュアル化が重要になる。また、働き方改革に伴う業務の効率化も必要となるので、引き続き課題の解決に取り組んで欲しい。アフターコロナに向けて行事の活性化にも力を入れていって欲しい。

生徒育成課	八幡南高校生としての自覚を身に付けさせるとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。	定例会議や職員研修、こまめな連絡等を通じて全職員が共通認識を持ち、連携して生徒を指導する。	B	B	B	定例の生徒部会(学年代表対象)の内容について生徒部内で共有することができなかった。次年度は共有フォルダ等で、随時確認できるような体制を構築していく。規定の周知徹底に関しては、現在進行中である。学年間で指導の差が出ないように、基準の統一を図り、記録に残していく。	B	
		規定の周知徹底を図り、学年間、他分掌との情報交換も密に行う。	B					
		生徒に、自身の言動の振り返りの機会を与えることで、社会人基礎力を向上させる。	B					
	安心で安全な学校生活を送るために、自主・自律の精神を育成する。	職員間の連携及び職員と生徒の連携を深め、共通認識を図った上で、生徒会活動及び各種委員会活動を活性化させる。	B	B				
		生徒会及び各種委員会を中心に、規範意識についての指導を行いながら、生徒自身が善悪の判断や適切な行動ができるようにする。	B					
		三密を防ぐ一方で、学校行事を創意工夫し、学校生活アンケートにおける学校生活が「とても充実している」「充実している」と答える生徒の割合70%以上を目指す。	A					
校外での事故を未然に防ぐために、交通安全教育を推進する。	自転車事故を想定した交通安全教室の実施等を通じて、交通安全に対する意識を高めさせ、交通事故0を目指す。	C	C					
	危機管理マニュアルの周知徹底及び必要に応じた再確認を行い、職員全体が事故後の対応・保護者への連絡等を共通認識の下、連携して対応できるようにする。	B						
	定期考査準備期間等において、職員全体で計画的に下校指導を行い、生徒の交通安全に対する意識を高める。	C						
保健課	生徒の自主的な健康管理を促す。	保健委員会による健康に対する意識を持たせるための取組(感染予防、熱中症、健康診断等に関する保健だよりやポスター制作、放送での呼び掛け等)を充実させる。	A	A	B	保健委員会の活動は充実させることができた。また、健康診断についてもスムーズに実施することができた。感染症対策については、Teamsへの健康チェックの入力状況やクラスの換気状況など、十分に実施できているところとそうでないところの差が大きかった。まずは職員間の意識の差を無くして生徒に指導するとともに、保健委員会を中心にしっかり自己管理ができるように働きかけを行っていきたい。	B	
		健康診断の意義や取組みについて十分に説明し、健康に関する意識を高めさせ、スムーズに検診が行えるようにする。	A					
		基本的な生活習慣を確立させるとともに、手洗いや換気などの感染症対策を進んで行うことができるようにさせる。	B					
	個々の生徒への理解・支援を図る。	支援を要する生徒については職員研修のみではなく、随時、職員の共通理解が図れるように連絡をこまめに行う。	A	B				
		カウンセラー、養護教諭、特別支援コーディネーター、担任、学年との連携を密にとるための時間設定を行う。	B					
		心の健康のためのカウンセラー便り等を作り、カウンセリングを受ける生徒だけではなく、全生徒に情報を発信する。	B					
	清掃活動に積極的に取り組み、校内環境美化への意識向上を目指す。	整美委員をリーダーとして、掃除時間の開始後すぐに清掃に取り掛からせ、時間いっぱい掃除に取り組むようにさせる。	C	B				
		日常の清掃活動のマニュアルを作り、清掃道具の補充等、清掃しやすい状態を整え、広範囲な清掃区域でも、毎日の清掃で校内を美しく保てるようにする。	B					
		消毒活動をこまめに行い、感染予防対策を徹底する。(消毒場所の指示、行事ごとの消毒等)	B					
ガイダンス課	進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路意識を高揚させる。	進路希望調査の内容や方法を見直すとともに、本校の多岐にわたる進路希望に応じた進路指導のための面談等に役立てていただけるような情報を教員に提供する。	B	A	B	進路希望調査をデジタルにしたことで、速やかに先生方へ情報提供できた。3年の自己採点もデジタル化を試みている。なるべく生徒や教員の負担を減らしながら生徒の進路希望の状況を把握できるようにさらに改善を続けたい。 課外授業の準備に早めに取り掛かれるように、基本方針や日程の提示を速やかに行う。また、各教科に縦のつながりを大事にもらい、3年間を見通した課外の授業を計画を立ててもらえるように、提案をする。長期休業中の補習については、1、2年は改革がうまくいっているように思う。一方で朝課外や放課後課外については、位置づけを明確にし、実施回数や内容等を精査する必要がある。 公務員・一般企業就職生徒の指導については、引継ぎを十分に行って、次年度も効果的な指導ができるようにしたい。また、キャリア化と連動して、3年生の総合的な探究の時間にゼミ活動を行うことができた。この活動を始めて次年度で3年目になる。効果的にできる方法をさらに工夫したい。	B	
		教室や進路資料室に置く資料を整理し、新しい資料を検討するなど、現状にあった資料を置くようにする。	A					
		オープンキャンパスや各種体験活動について積極的に発信し、生徒に主体的に行動するように促す。	A					
	3年間を見通した課外・模試分析を実施し、生徒の希望進路の実現を目指す。	学年や各教科と連携して生徒の実情に応じた課外授業を実施し、生徒の希望進路実現100%を目指す。	B	B				
		生徒の状況を教員が把握して効果的な教育活動を行なえるように、模試ごとに分析会を行う。	A					
	個々の生徒の進路希望に応じた指導を実施し、多岐にわたる進路に対応する。	公務員採用試験や就職試験を目指す生徒に対しても早期に計画的な指導を実施し、100%合格を目指す。	B	B				
キャリア課と連動して、早期の面接・小論文・討論・口頭試問等のゼミ活動を計画する。		B						

学校への満足度が96%となっていることは評価できる。今後も学校行事だけでなく、日々の授業等を通して、生徒の自尊感情が高まる取組を期待したい。また、自転車通学者に対しては、ヘルメット着用の努力義務化など改正法の内容の周知にも努めて欲しい。

健康チェックの電子入力は大変良い取組である。今後も手洗い、換気等感染防止の基本的な取組を徹底して欲しい。生徒の情報共有についても、電子媒体を活用した方策などを模索し、個々の生徒に応じたきめ細かな対応ができるよう取り組んでいって欲しい。

生徒の進路が希望に添えるよう先生方と生徒の対話を大切にしたい。課外については、回数や内容等を精査するだけでなく、趣旨や目的等在り方自体の検討も行っていく必要がある。公務員・就職希望生徒への指導については、今後とも熱心な指導を期待している。

キャリア学習課	3年間を見通した系統的な指導を行い、明確な進路目標のもとに主体的に行動する生徒を育成する。	1年次は、職業・学問研究、2年次は進路先研究、3年次は進路目標に向けて自走できる生徒を育成するための総合的な探究の時間を計画する。	A	B	B	3年間を見通した総合的な探究の時間の計画を立て、実行することができた。ポートフォリオをデジタルで入力することで資料の紛失は防げるが、紙に記入しそれを保管することも大事である。デジタルとアナログの両方をきちんと記録として残す方法に課題があるので、学年ごとにばらつきが出ないように良い方法を共有して、生徒が探究学習と進路の結びつきを感じながら、自分の生き方を見出せるように、さらに工夫を重ねたい。	A	同窓生によるキャリア教育志授業は、幅広い進路の選択肢が増える取組で評価できる。また、SDGsなど喫緊の課題について生徒たちが探究している活動も評価できる。今後も早期に進路目標を定める動機付けの指導・支援を行うとともに、ミスマッチを防ぐための様々な取組も行っていった欲しい。
		探究学習の成果が確実に記録として蓄積され、3年次の志望理由書作成につながるようなポートフォリオシートを作成する。	B					
		進路探究学習とSDGs探究学習の結びつきを生徒が理解し、どのように社会に貢献する人材となるか、自分の生き方を見出せるようにする。	B					
	進路実現のために必要な思考力・判断力・表現力を有する生徒を育成する。	「小論文・面接・討論・口頭試問ゼミ」を3年間を見通した系統的な計画として実施し、「書く力」と「話す力」の育成を行い、生徒の表現力を高める。	B					
		探究学習で調べたことをまとめ、整理し、プレゼンテーションを行う機会を設定する。	A					
		思考力・判断力・表現力を5段階で自己評価し、1年間を通して評価が上昇し生徒自身が成長を実感できるポートフォリオシートを作成する。	B					
社会とのかかわりの大切さや、働くことの意義をしっかりと理解した、一人ひとりのキャリア発達を支援する。	1年次に「キャリア教育志授業」で職業人の話を聞くことにより、効果的に学問・職業選択の可能性を広げられるように計画・実施する。	A	B					
	2年次までにオープンキャンパスに2回は参加し、複数の進路先を比較し、視野を広げるように促すとともに、事前事後指導を丁寧に行う。	B						
	校外で行われる体験活動やボランティア活動等に積極的に取り組み、社会とのかかわりを多く持たせるようにする。	B						
図書課	読書活動の推進と、図書館利用の促進を図る。	朝読書とビブリオバトルの運動を強化し、それぞれの内容を充実させ、生徒の読書に向かう意欲を高める。	B	B	B	1学期、夏期休業中の読書に関して、図書委員会からビブリオバトルを意識した呼びかけや提示ができた。図書委員会の校内研修や、他校の図書委員会との交流等にも積極的に参加させ、さらに効果的に図書委員会から本校の生徒の読書への意欲を高められる呼びかけができるようにしたい。	A	生徒同士の交流や生徒相互による動機付けを仕組む取組は大変素晴らしい。
		オリエンテーションや学年との連携、計画的なビブリオバトルの実施により、全校生徒が年間で3冊、本を読むことを目指す。	B					
		生徒による図書だよりの充実、図書活動への定期的な呼びかけを実施し、図書委員会の活動を充実させる。	B					
研修委員会	基本研修・職員研修の充実を図る。	若年者研修や基本研修等の確実で充実した実施及び、その成果を発表する機会を設定する。	B	B	B	各分掌と連携して、ICT活用による授業改善、積極的な生徒指導、多様な進路に対応した進路指導など、教員の資質能力の向上と学校全体の教育力の向上させるための校内研修を充実させる。	B	外部人材を活用するなどして、教職員のICT活用スキルの向上を図って欲しい。授業改善を進めていくため、授業アンケートの調査項目自体にも絶えず検討を行っていった欲しい。
		教員が必要を感じる共通の課題に応えるため、各分掌とも連携して、本校の実態に合わせた校内研修を実施する。	B					
		教育実習の充実により、将来の人材に授業力や生徒指導力、社会人としての基本を身につけさせる。	B					
	生徒が授業で力がついたと実感できるよう、授業改善に努め、教科指導力の向上を図る。	授業アンケート結果のフィードバックによる授業改善を目指し、「生徒が授業で力がついたと実感できる」等の質問回答率の向上を目指す(3.5以上(4段階評価))。	B					
		相互授業参観の期間を設定し、担当教科・他教科(自教科2回以上、他教科1回以上)の参観シートの提出率100%を目指し、授業改善につなげる。	C					
		研究授業大会を実施し、教科を越えた授業手法の共有を図り、教科指導力を向上させる。	C					
「新たな学びプロジェクト」の内容充実を図る。	教案やICT教材などの電子データを共有できるように集約し、外部研修の資料を置くなどして、情報共有のための環境整備、内容の充実に取り組む。	B	B					
	教務部と連携して、「新たな学びプロジェクト」の一環として、言語活動・体験活動、一人一台端末などのICTを活用した授業について各教科で検討・実施を行う。	B						
	「新たな学びプロジェクト」の各教科の成果を発表する機会を設ける。	C						
人権・同和教育推進委員会	生徒の人権に関する知的理解と人権感覚の向上に努める	教育活動全体を通じて全職員で人権教育を推進し、人権尊重の精神を涵養し、実践的な行動力を育成する。	B	A	B	特設授業では、各学年で教材や内容を吟味精選し、生徒の心に届く授業づくりに努めた。来年度は当事者の方の講演を入れることも検討したい。12月の人権週間の取組では、生徒会と連携して啓発活動を行うことができた。取組を継続し、実践力に繋がる人権感覚の涵養に努めていきたい。	A	「明日への伝言板」を活用するなど生徒の心に届く実践例は大変良く、今後も人権感覚の涵養に努めていただきたい。また、事務と連携した相談コーナーの設置や生徒・保護者の悩み等に応じる取組は今後も継続して欲しい。
		生徒の実態や現在の社会情勢に応じた学習内容・教材を精選し、事前学習やふりかえりの時間の確保に努め、特設授業の充実を図る。	A					
		7月、12月に人権教育・啓発週間の取組を実施する。また、生徒会と連携して啓発活動を行う。	A					
	生徒一人一人の自己実現のために、確かな学力と進路を保障する	人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、生徒情報交換を行い、職員の共通認識を図る。	A					
		学習面や生活面で様々な課題がある生徒の状況や生活背景をつかむことで、生徒理解を深め、他の分掌と連携しながら必要な支援へと繋げる。	B					
		人権教育や修学支援に関する情報の発信や校外の研修会の案内をこまめに行い、全職員が情報や資料を共有・活用できるようにする。	B					
	支援や配慮を必要とする個々の生徒への支援体制を整える	中高連絡会や入学式時の相談コーナー、生徒情報交換の研修会など、様々な機会を通して生徒の状況把握に努め、必要な支援・配慮についての共通認識を図る。	A	B				
		特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、関係諸機関と連携しながら、支援方法を検討し、校内の支援体制を整備する。	B					
		家庭や地域、校種間、関係機関と連携・協同しながら、個々の生徒に応じた適切な支援や配慮を行っていく。	B					
						入学式時の相談では、奨学金や給付金など経済面での質問や相談が多かった。事務室と連携しながら丁寧な対応や情報提供を行っていきたい。また、相談コーナーの積極的な案内を行う。中高連絡会では、予め知りたいことのリストを用意して出席し、よりスムーズに多くの情報を入手することができた。		

1学年	自身の弱さと向き合い、心身共に八幡南高生として自覚ある行動ができるようにする	定例学年集会を年12回開き、様々な教員が講話を行い教員と生徒の信頼関係を醸成し、また、リーダーが話す機会を確保し、リーダーシップの育成、およびフォローシップ、生徒間の連帯感を強める。	B	B	多くの生徒は八幡南高生として自覚ある行動ができるようになっているが、一部のできていない生徒に対して、自身の弱さと向き合わせるための個人指導に持ち込むことがうまくできていないため、指導の体制の確立と、教員の共通理解が課題である。また、挨拶について、生徒の継続性がないところもあるため、折を見て学年集会等をさらに実施していきたい。生徒指導が生徒の将来につながっているものであることまで生徒たちに自覚させる指導を今後も行っていきたい。		
		部活動加入率80%を目指し、心身共に鍛錬を行う場を確保することに加えて、積極的に部活動や生徒会活動への参加を促す。活動を通して八幡南高生にふさわしい行動ができるようにする。	B				
		ルールの意義を考える説諭指導を行ったり、ルールを破った瞬間の自身を見つめ直させたりすることによって、自己中心的でない、他者への思いやりをばくむとともに、挨拶や、マナーの資質を向上させる。	B				
	学びを修正する力を養い、正しい学習方法と学習習慣を身に付ける	何をどのように学習すればよいかわからない生徒を想定し、学習面談を行う。その際には、授業を中心として学習体制を整え、予習・授業・復習・課題提出の学習サイクルを確立することの大切さを指導する。	A	A		学びを修正するために、教員からの働きかけが非常に多く、学習の仕方を伝えることができた。また、成績向上者アンケートについても、先行実施していただいており、学びの修正力向上に貢献できている。ただ、日頃の学習についての継続性が生徒たちの中で十分意識されておらず、継続させるための課題の出し方や予習の仕方などを工夫することが課題である。	
		PDCAシートを活用し、定期考査ごとに計5回、教科ごとに振り返りを行うことを通して、学び方、学習の仕方の改善を促す。	B				
		個人で学習するのではなく、周囲とのつながりが意識できるよう工夫をし、学習に取り組もうとする意欲を引き出す。また、スタディサプリ活用時間や学習時間の調査を行い、表彰等の仕掛けを通して、各クラスの学習習慣の定着を促す。	A				
自身の適性を知り、目標を見つけ、ゴールを想定した、進路学習を行う素地を身に付ける	夏季補習を活用し、実際の入試問題を解くことで、既習の知識で解くことができることを確認し、日頃の学習に対する姿勢と、これからの学習方法の改善点を考えさせる。	A	B	夏季補習や夏期休暇を活用し、ゴールを見せ、さらに、冬期補習では外部講師による模試の振り返りや、合格ライン等でゴールを意識させることはできたが、生徒たちのゴールを具体化させる活動ができなかった。2学期において進路に関する講演などの機会が少なく、ゴールの具体化が十分ではない。そのため、未来辞典や職業動画等を活用して、生徒たちのゴールの発見につながる取り組みが課題である。			
	個人面談、スタディサプリ、保護者会、適性検査、学問調べ等を活用して、進路意識の高揚を図る。	B					
	自身の学習課題と向き合わせることで、各教科が掲げた進研模試の目標偏差値を達成する。	B					
2学年	生徒の学習意欲を高め、学力の充実・伸長を図る	予習、授業、復習の習慣を再定着させ、授業を中心に学力の充実に努める。	A		B	多くの生徒はやるべきことにしっかり取り組んでいる。生徒の学習意欲に差はあるものの、それぞれの進路実現に対応できるよう、計画的な指導が必要である。	
		学習の習熟度に応じた補習や個別指導を適宜行い、学力の伸長に努める。	B				
		課題や小テストに計画的かつ積極的に取り組むよう指導する。	B				
	進路意識を高め、高い志を持つ生徒を育成する	授業を通して主体的に学ぶ姿勢を育成し、総探や学校行事等を通して豊かな表現力を育成する。	A	A	総探の発表では、人前に立つのが苦手な生徒も積極的に取り組み、創立60周年記念生徒発表に繋げることができた。進路についてようやく具体的に考えるようになってきた生徒が多い。進路実現に向けてしっかり取り組めるよう、学習への取り組み方や入試制度についてもしっかり指導していきたい。		
		大学主催のオープンスクール等への参加を促し、具体的な進路目標を持つことができるよう指導する。	A				
		模試の国英英合計の全国偏差値54以上55名を目指し、進路希望実現に向けた意識付けを継続的に行う。	B				
中堅学年として、他者と協働しながら行動することができる生徒を育成する	学年代表を中心に協働できる集団を作るために、リーダーだけでなく、各々が周囲を見て自分がなすべきことを考え、発言・行動ができるよう促す。	B	A	学年代表を中心に協働する機会を持つことができた。周囲を見て行動できる生徒が多いが、積極性には欠ける。自分たちで考え、発言・行動する機会をさらに増やしていく必要がある。			
	平日頃からHR等で心の教育を行い、他者を思いやり行動することができるよう指導する。	A					
	こまめに生徒と面談を行い、個々の生徒の実態に応じた適切な指導を行う。	A					
3学年	生徒の第一希望進路100%実現を目指す	国公立大学70名以上、公務員7名以上合格を目指し、系統的に指導する。	B		A	生徒の合格体験記だけでなく、合格した生徒の指導をどのように行ったか、どのような力をつけることが必要か、教員の申し送りや複数で指導に当たるなどの教員集団の指導力向上を図ることが必要である。	
		総合型選抜入試、学校推薦型入試に向け、小論文及び面接の指導体制の充実を図る。	A				
		習熟度に応じた課外や補習を行い、生徒が最後まで諦めずに努力し続ける体制を作る。	A				
	授業を大切に、最後まで学び続ける生徒を育成する	基礎学力の充実を図るとともに、習熟度に応じた学習指導を行う。	B	B	生徒の進路実現に向けた3年間の見通しを立てた授業を計画的に実施し、状況に応じて改善しながら生徒の学力向上を図ることが必要である。		
		英語実用技能検定などの資格取得を推奨し、学習意欲の高揚、学力の充実を図る。	B				
		進路決定後も自分自身を高めるために学び続ける雰囲気醸成し、クラス全体で最後まで学習に取り組ませる。	B				
主体的に考え行動し、自分の言動に責任を持つ、自立した生徒を育成する	生徒一人ひとりの良さを認め、褒め、自信を持って行動できる生徒を育成する。	A	A	授業、掃除、HR、学校行事、部活動、地域清掃など、様々な場面で生徒と関わり、鍛え、褒めることで生徒の健全な育成と成長を図ることが必要である。			
	学年全体でフォローシップを育成し、60周年記念体育大会、文化祭を成功させ、学校生活での自信につなげる。	A					
	最上級生としての自覚を持ち、状況に応じた適切な言動を行うことができるようにする。	B					
事務部	本校の学校経営方針を認識し教育環境の整備を図る。	生徒への教育効果を高めるため教員と情報を共有し、校内の教育環境及び教育設備の充実に努める。	B		B	安心安全な教育環境の整備充実に努める。適正かつ効果的な会計事務処理に努めていく必要がある。	
	効率的かつ適正な業務運営	予算の効率的な執行を図るとともに、必要な予算要求を行う。	A				A
		職員間の相互チェックを徹底し、適正な会計事務処理の執行に努める。	A				

A	高校生活の基盤を作り、希望進路の実現に向かう姿勢を身に付けていくようにして欲しい。
A	学校行事や部活動等でリーダーシップを発揮して活躍できるようにして欲しい。生徒自らが考え、行動できる取組にも力を入れていって欲しい。
A	高い志を持ち、夢の実現に向けてチャレンジする生徒を育てて欲しい。
A	今後の施設設備の充実と、適正な事務処理に努めて欲しい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を活用した授業推進に努めるとともに、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実に努め、地域から信頼される学校づくりを進めていく。</li> <li>生徒が高い志を持ち、失敗を恐れずにチャレンジし、希望を貫くことができるよう教職員全体の力を結集して、教育活動を組織的に推進していく。</li> <li>コロナ禍で実施できなかった取組を整備して実施し、生徒の自己肯定感を高めるとともに、八幡南高校生としての自覚と誇りを持たせていく。</li> </ul>
---

評価項目以外のものに関する意見
創立60周年という大きな節目となる学校行事を成功裏に収めることができた。